

津市監第527号
平成23年10月20日

津市長 前 葉 泰 幸 様

津市監査委員	渡 邊	昇
津市監査委員	駒 田	修 一
津市監査委員	山 崎	正 行
津市監査委員	田 矢	修 介

平成22年度財産区会計歳入歳出決算審査意見について（提出）

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第2項の規定に基づき審査に付された下記の平成22年度財産区会計歳入歳出決算の審査意見について、別添のとおり提出します。

記

- 1 平成22年度榊原財産区会計歳入歳出決算の審査意見
- 2 平成22年度河内財産区会計歳入歳出決算の審査意見
- 3 平成22年度波瀬財産区会計歳入歳出決算の審査意見

平成 2 2 年 度

榑 原 財 産 区 会 計
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
 - 「－」・・・・・・比率において、±1,000%以上のもの
 - 「△」・・・・・・金額、比率において、負数のもの

平成 22 年度榊原財産区会計歳入歳出決算審査意見

第 1 審査の対象

審査の対象は、平成 22 年度榊原財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

第 2 審査の期間

審査の期間は、平成 23 年 8 月 31 日から同年 10 月 12 日までである。

第 3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

第 4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 2,980 万 5 千円（表 1 参照）、歳出決算額は 2,817 万 2 千円（表 2 参照）で、歳入歳出差引額は 163 万 4 千円である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、次のとおりである。

(1) 歳 入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、財産収入 2,116 万 3 千円、繰入金 668 万 8 千円である。

表 1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成22年度				平成21年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	21,170	21,163	71.0	100.0	21,497	80.0	△ 334	△ 1.6
繰入金	6,688	6,688	22.4	100.0	4,443	16.5	2,245	50.5
繰越金	1,209	1,210	4.1	100.1	720	2.7	490	68.1
諸収入	454	745	2.5	164.1	227	0.8	518	228.2
計	29,521	29,805	100.0	101.0	26,887	100.0	2,918	10.9

(2) 歳 出

歳出の内訳は表 2 のとおりで、決算額の主なものは、総務費 550 万 1 千円、財産費 1,217 万 2 千円、諸支出金 832 万 4 千円である。

表 2 歳出内訳表 (単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成22年度				平成21年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議 会 費	2,229	2,079	7.4	93.3	2,070	8.1	9	0.4
総 務 費	6,360	5,501	19.5	86.5	5,414	21.1	87	1.6
財 産 費	12,484	12,172	43.2	97.5	8,937	34.8	3,235	36.2
積 立 金	103	97	0.3	94.2	154	0.6	△ 57	△ 37.0
諸 支 出 金	8,325	8,324	29.5	100.0	9,102	35.4	△ 778	△ 8.5
予 備 費	20	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	29,521	28,172	100.0	95.4	25,677	100.0	2,495	9.7

2 財産に関する調書

財産の平成 22 年度中の増減高及び平成 22 年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

公有財産の状況は表 3 のとおりで、土地の合計面積は山林が 74 平方メートル減少し、平成 22 年度末現在高は 1,226 万 4,207 平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成 22 年度中に 346 立方メートル増加し、平成 22 年度末現在高は 3 万 1,327 立方メートルである。

出資による権利については、平成 22 年度中の増減はなく、平成 22 年度末現在高は 84 万円である。

表 3 公有財産の状況

区 分		単位	平成21年度末現在高	平成22年度中増減高	平成22年度末現在高	
土 地	公共用財産(その他の施設)	m ²	918	0	918	
	山 林	直 営	m ²	1,837,950	20,294	1,858,244
		貸 付	m ²	10,425,411	△ 20,367	10,405,044
	合 計		m ²	12,264,280	△ 74	12,264,207
立木の推定蓄積量		m ³	30,981	346	31,327	
出資による権利		千円	840	0	840	

(2) 物 品

物品は軽貨物自動車で、表4のとおり平成22年度中に増減はなく、平成22年度末現在高は2台である。

表4 物品の状況 (単位：台)

区 分	平成21年度末現在高	平成22年度中増減高	平成22年度末現在高
軽貨物自動車	2	0	2

(3) 基 金

基金は榊原財産区財政調整基金で、表5のとおり平成22年度中に659万1千円減少し、平成22年度末現在高は2,843万4千円である。

表5 基金の状況 (単位：千円)

区 分	平成21年度末現在高	平成22年度中増減高	平成22年度末現在高
榊原財産区財政調整基金	35,025	△ 6,591	28,434

3 まとめ

平成22年度の歳入歳出差引額は、163万4千円の黒字となっているが、実質単年度収支(注)の状況を見ると、616万7千円の赤字となっており、榊原財産区財政調整基金からの繰入れについては、同会計の歳入決算額の22.4パーセントを占めている。

一方、当該基金の平成22年度末現在の残高は2,843万4千円となっているが、平成20年度以降減少傾向にあり、このままの状況で推移すると事業継続のための財政基盤の一つである同基金を失うことが懸念されることから、中長期的視野に立った計画的な財政運営を望むものである。

(注)実質単年度収支=当該年度実質収支-前年度実質収支(繰越金)+財政調整基金積立額+
地方債繰上償還額-財政調整基金取崩額(繰入金)

平成 2 2 年度

河 内 財 産 区 会 計
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

平成 22 年度河内財産区会計歳入歳出決算審査意見

第 1 審査の対象

審査の対象は、平成 22 年度河内財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

第 2 審査の期間

審査の期間は、平成 23 年 8 月 31 日から同年 10 月 12 日までである。

第 3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

第 4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 39 万 9 千円（表 1 参照）、歳出決算額は 23 万 8 千円（表 2 参照）で、歳入歳出差引額は 16 万 1 千円である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、以下のとおりである。

(1) 歳 入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、繰入金 25 万円、繰越金 14 万 6 千円である。

表 1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成22年度				平成21年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	4	3	0.8	75.0	9	1.4	△ 6	△ 66.7
繰入金	250	250	62.7	100.0	270	43.1	△ 20	△ 7.4
繰越金	145	146	36.6	100.7	347	55.4	△ 201	△ 57.9
諸収入	10	0	0.0	0.0	1	0.2	△ 1	△ 100.0
計	409	399	100.0	97.6	626	100.0	△ 227	△ 36.3

(2) 歳出

歳出の内訳は表2のとおりで、決算額の主なものは、議会費20万3千円である。

表2 歳出内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成22年度				平成21年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議会費	233	203	85.3	87.1	209	43.5	△6	△2.9
総務費	20	15	6.3	75.0	9	1.9	6	66.7
財産費	130	17	7.1	13.1	254	52.8	△237	△93.3
基金積立金	4	3	1.3	75.0	9	1.9	△6	△66.7
予備費	22	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	409	238	100.0	58.2	481	100.0	△243	△50.5

2 財産に関する調書

財産の平成22年度中の増減高及び平成22年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

公有財産の状況は表3のとおりで、土地と建物の面積に増減はなく、平成22年度末現在高は13万278平方メートルで、建物は木造1棟63平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成22年度中に88立方メートル増加し、平成22年度末現在高は7,552立方メートルである。

表3 公有財産の状況

区分		単位	平成21年度末現在高	平成22年度中増減高	平成22年度末現在高
土地	山林	m ²	130,278	0	130,278
建物	河内公民館	m ²	63	0	63
立木の推定蓄積量		m ³	7,464	88	7,552

(2) 基金

基金は河内財産区財政調整基金で、表4のとおり平成22年度中に24万7千円減少し、平成22年度末現在高は650万1千円である。

表4 基金の状況

(単位:千円)

区分	平成21年度末現在高	平成22年度中増減高	平成22年度末現在高
河内財産区財政調整基金	6,748	△247	6,501

3 まとめ

平成22年度の歳出決算額における財産費の執行率は13.1パーセントと低く、その理由は、土地の境界や樹木の生育状況の巡視が見送られたことに伴うものであるが、その保有する山林の維持管理について、計画的に執行されるよう努められたい。

平成 2 2 年度

波 瀬 財 産 区 会 計
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

平成 22 年度波瀬財産区会計歳入歳出決算審査意見

第 1 審査の対象

審査の対象は、平成 22 年度波瀬財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

第 2 審査の期間

審査の期間は、平成 23 年 8 月 31 日から同年 10 月 12 日までである。

第 3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

第 4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 738 万円（表 1 参照）、歳出決算額は 616 万円（表 2 参照）で、歳入歳出差引額は 121 万 9 千円である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、以下のとおりである。

(1) 歳 入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、財産収入 638 万 5 千円、繰入金 90 万円である。

表 1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成22年度				平成21年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	6,382	6,385	86.5	100.0	148	27.0	6,237	-
繰入金	900	900	12.2	100.0	300	54.6	600	200.0
繰越金	94	95	1.3	101.1	99	18.0	△ 4	△ 4.0
諸収入	0	0	0.0	0.0	2	0.4	△ 2	△ 100.0
計	7,376	7,380	100.0	100.1	549	100.0	6,831	-

(2) 歳 出

歳出の内訳は表 2 のとおりで、決算額の主なものは、総務費 502 万 7 千円、災害復旧費 66 万 2 千円である。

表 2 歳出内訳表 (単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成22年度				平成21年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議 会 費	545	471	7.6	86.4	122	26.9	349	286.1
総 務 費	5,073	5,027	81.6	99.1	332	73.1	4,695	-
災害復旧費	662	662	10.7	100.0	0	0.0	662	0.0
予 備 費	1,096	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	7,376	6,160	100.0	83.5	454	100.0	5,706	-

2 財産に関する調書

財産の平成 22 年度中の増減高及び平成 22 年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

公有財産の状況は表 3 のとおりで、土地の合計面積は山林が 1,702 平方メートル減少し、平成 22 年度末現在高は 100 万 9,635 平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成 22 年度中に 373 立方メートル増加し、平成 22 年度末現在高は 3 万 8,819 立方メートルである。

出資による権利は、平成 22 年度中に増減はなく、平成 22 年度末現在高は 55 万 5 千円である。

表 3 公有財産の状況

区 分		単位	平成21年度末現在高	平成22年度中増減高	平成22年度末現在高	
土 地	宅 地	m ²	1,208	0	1,208	
	雑 種 地 ・ 原 野	m ²	887	0	887	
	山 林	直 営	m ²	1,009,242	△ 1,702	1,007,540
		貸 付	m ²	0	0	0
	合 計	m ²	1,011,337	△ 1,702	1,009,635	
立木の推定蓄積量		m ³	38,446	373	38,819	
出資による権利		千円	555	0	555	

(2) 基金

基金は波瀬財産区財政調整基金及び波瀬財産区養老福祉基金で、表4のとおり平成22年度中に88万円減少し、平成22年度末現在高は1,465万5千円である。

表4 基金の状況

(単位：千円)

区 分	平成21年度末現在高	平成22年度中増減高	平成22年度末現在高
波瀬財産区財政調整基金	10,534	4,120	14,655
波瀬財産区養老福祉基金	5,000	△ 5,000	0
計	15,534	△ 880	14,655

3 まとめ

平成22年度の財産収入は638万5千円で、平成21年度より623万7千円増加しているが、これは主に波瀬財産区養老福祉基金が廃止されたことに伴う精算金収入500万円のほか、財産売払収入129万8千円が計上されたことによるものである。

当該精算金収入は、波瀬財産区財政調整基金に積み立てられており、中長期的視野に立った計画的な財政運営を望むものである。